



気候変動で私たちの生活はどう変わる？

～気候変動影響評価報告書～



気候変動影響評価の結果一覧

分野	大項目	小項目	重大性 (RCP2.6/8.5)	緊急性	確信度
農業・林業・水産業	農業	水稲 野菜等 果樹 大豆、ひよし、飼料作物等 畜産 肉牛・豚等 農業生産設備 畜舎・施設	△ ● ● ● ● ● ● ●	● ● ● ● ● ● ● ●	▲ ● ● ● ● ● ● ●
	林業	木本生産（人工林帶 持続的伐採（さくごくはぎ）等） 持続的育成（じゆぞくえいせい）等の生態） 森林資源 森林保全	● ● ● ● ● ● ● ●	● ● ● ● ● ● ● ●	▲ ● ● ● ● ● ● ●
	水産業	沿岸域・内水面・島嶼域等 漁港・マム酒 河川 沿岸域・河口域・海陸域等 水質汚染 水生生物 水生植物（地下水）	● ● ● ● ● ● ● ●	● ● ● ● ● ● ● ●	▲ ● ● ● ● ● ● ●
	水環境・水資源	水需要 河川 沿岸生態 沿岸生態・温帯・寒帯 海岸生態系	● ● ● ● ● ● ● ●	● ● ● ● ● ● ● ●	▲ ● ● ● ● ● ● ●
	自然生態系	陸域生態系 淡水生態系 沿岸生態系 海岸生態系	● ● ● ● ● ● ● ●	● ● ● ● ● ● ● ●	▲ ● ● ● ● ● ● ●
	自然生態系	生物多様性の影響 生物多様性の変動 分生物個体数の変動 外来生物 生態系サービス	● ● ● ● ● ● ● ●	● ● ● ● ● ● ● ●	▲ ● ● ● ● ● ● ●

*重大性については、一部の項目においてRCP2.6/8.5シナリオに沿って評価を実施



日本の気温の観測結果

日本の年平均気温は、様々な時間スケールの変動を伴いながら1898年から2019年の間に100年当たり0.74°Cの割合で上昇しています。また、日本の平均気温の上昇率は世界平均気温の上昇率(100年当たり0.74°C)よりも大きいものとなっています。

日本国内では、真夏日、猛暑日、熱帯夜等の日数が有意に増加している一方、冬日の日数は有意に減少しています。

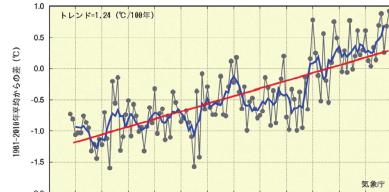


図 日本の年平均気温偏差の経年変化(1898～2019年)

細線(黒):各年の平均気温の基準値からの偏差、太線(赤):長期変化傾向。基準値は1981～2010年の30年平均値。全国の地上気象観測地点の中から、観測データの均質性が長期間確保でき、かつ都市化等による環境の変化が比較的小さい地点から、地域的に偏りなく分布するように選出した15地点(網走、根室、寿都、山形、石川、伏木、飯田、銚子、境、浜田、彦根、多度津、宮崎、名瀬、石垣島)の観測データに基づく。

日本の気温の将来予測

RCP2.6と8.5のいずれの温室効果ガス排出シナリオにおいても、21世紀末の日本の平均気温は上昇すると予測されています。これに伴い、多くの地域で猛暑日や熱帯夜の日数は増加する予測されています。

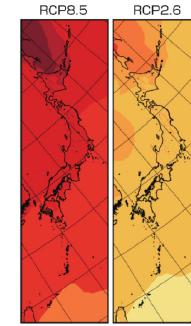


図 21世紀末(2076～2095年平均)における日本の年平均気温の変化の分布(℃)

左はRCP8.5シナリオ、右はRCP2.6シナリオでの予測。いずれも20世紀末(1980～1999年平均)との差。

[RCP8.5シナリオ]

現時点を超える追加的な緩和策を取らない想定した排出シナリオ。21世紀末時点での世界平均気温が、工業化以前(18世紀半ば)と比較して約4°C上昇する。

[RCP2.6シナリオ]

21世紀末時点での世界平均気温の上昇を、工業化以前と比較して2°C以内に抑えるように、厳しい緩和策をとることを想定した排出シナリオ。

日本の降水の観測結果

大雨や短時間強雨の頻度が増加し、極端な降水の強さも増す傾向にある一方、雨がほとんど降らない日も増えており、雨の降り方が極端になってきています。

日本国内の年降水量には、統計的に有意な長期変化傾向は確認されていません。

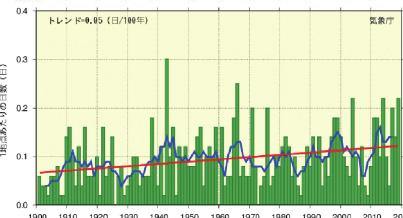


図 日降水量200mm以上の大雨の年間日数の経年変化(1901～2019年)

棒グラフ(緑):各年の年間日数を示す(観測データの均質性が長期間継続している全国51地点における平均で1地点当たりの値)、太線(青):5年移動平均値、直線(赤):長期変化傾向(この期間の平均的な変化傾向)。

日本の降水の将来予測

RCP2.6と8.5のいずれの温室効果ガス排出シナリオにおいても、大雨及び短時間強雨の発生頻度は、全国平均では有意に増加する予測されています。

また、日本の年降水量には有意な変化は予測されていません。

日降水量200mm以上の1地点あたりの発生回数の変化

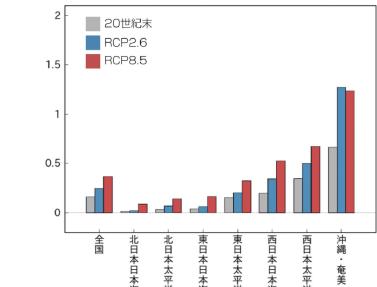
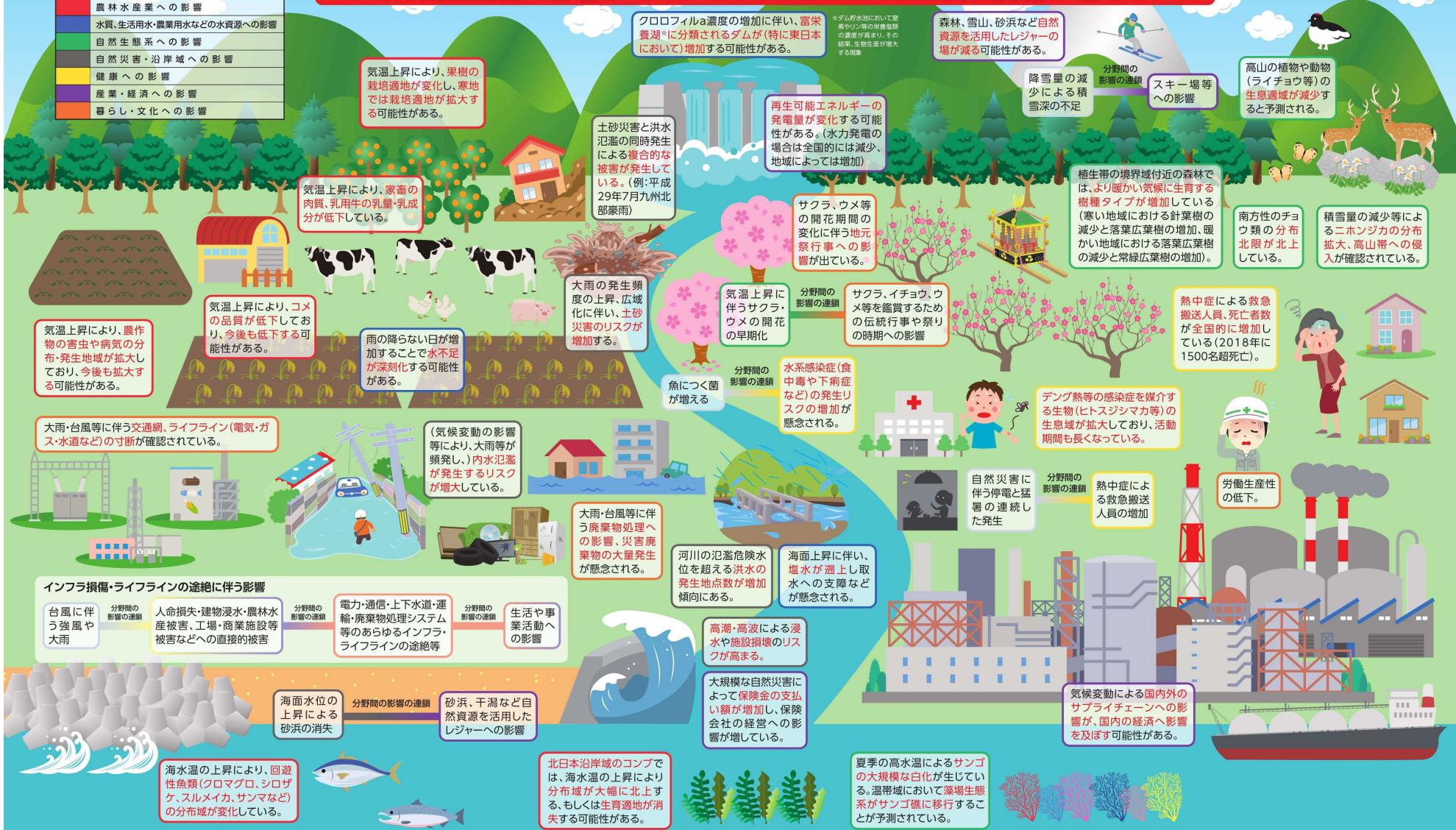


図 全国及び地域別の1地点当たりの日降水量200mm以上の発生回数(日/年)

気象庁の予測による。棒グラフ:それぞれの大雨の発生回数、細い縦線:年々変動の幅。棒グラフの色は灰色:20世紀末(1980～1999年平均)、赤:RCP8.5シナリオ、青:RCP2.6シナリオの21世紀末(2076～2095年平均)に対応する。ただし、20世紀末の値にはバイアス補正を加えているものの完全にバイアスが除去されている訳ではなく、観測値とは値が異なることに注意。

すでに気候変動の影響がでています。さらにこのまま気候変動が進むと…?

カラー	分野
赤	農林水産業への影響 水質・生活用水・農業用水などの水資源への影響
緑	自然生態系への影響
黒	自然災害・沿岸域への影響
黄	健康への影響
紫	産業・経済への影響
オレンジ	暮らし・文化への影響



デコ活
くらしの中のエコロジー

脱炭素につながる新しい豊かな
暮らしを創る国民運動

できることから
はじめよう！

デコ活アクション まずはここから

- 電 気も省エネ 断熱住宅
- こ だわる楽しさ エコグッズ
- か 感謝の心 食べ残しぜロ
- つながるオフィス テレワーク

